



Title	第4回WHO協力センター連携会議を開催して
Author(s)	岩本, あづさ
Citation	目で見るWHO. 2022, 82, p. 6-9
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89914
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第4回WHO協力センター連携会議を開催して



国立国際医療研究センター国際医療協力局
連携協力部連携推進課 課長

岩本 あづさ

日本の小児科・新生児科での臨床経験後2000年よりグローバルヘルスに関わる。2020年までラオス、カンボジアなど複数国に長期滞在。2021年10月より現職。

はじめに

新年度に入ってまもない2022年4月26日（火）の午後、国立国際医療研究センター（National Center for Global Health and Medicine: NCGM）国際医療協力局にて、「WHO 協力センター（World Health Organization Collaboration Center: WCC）連携会議」を2年半ぶりにオンラインで開催しました。日本国内に37あるWCCから35施設、また日本WHO協会、WHO神戸センター、そしてWHO西太平洋地域事務局（Western Pacific Regional Office: WPRO）、国立国際医療研究センターから約100名の方が参加されました。本稿では、コロナ禍となって初めての開催となった本会議に関して報告したいと思います。

1. WHO 協力センター（WCC）とは

WCCは、WHOの様々な活動プログラムのグローバルな展開を目的として認定される協力組織・機関のことで、現在世界80か国以上に800施設以上存在します。各WCCはWHO本部あるいは地域事務局の担当部局と活動内容に関する契約（Terms of Reference: TOR）を締結し、TORに基づいてWHOと連携・協力しながら活動を実施しています。契約期間は4年間で、毎年1回担当部局への年次報告書の提出が義務付けられています。WHO側の承認が得られれば、必要に応じて契約を更新することも可能です。

2. WCC 連携会議開催の経緯

WCC連携会議は、日本国内のWHO協力センターの連携・協力の促進を目的として、2017年よりこれまでに計3回、NCGM国際医療協力局が事務局となって開催されてきました。全国のWCC関係者が一堂に会して活動を報告し、全国のWCCやWPROからの参加者とも意見交換できる、貴重な機会として活用されてきたのです。しかし新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響を受け、2020年度および2021年度は開催を見送ることを余儀なくされました。今回は、WPROから葛西健事務局長はじめ3人をNCGMにお迎えして、オンライン形式で開催の運びとなりました。

3. 第4回WCC会議の概要

3-1. テーマと目的：

世界がCOVID-19パンデミックという共通の試練に立ち向かってきたこの2年間、どのWCCも様々な工夫を重ねながら、それぞれの活動を続けられてきたと考えられます。そのため今回の会議は可能な限り、それぞれのご苦労や活動継続の工夫を情報共有できる場にしたいと思いました。そのためWPROとも相談して、今回の会議のテーマを「ポストCOVID-19パンデミックの未来を見据えた効果的な連携・協力を考える」と設定しました。厳しい状況の中から生まれた具体的な連携・協働の事例を共有して頂き、日本のWCCが新たな発展を遂げる契機になることへの期待を込めたのです。



会議の一場面

また会議の目的を、以下の2点としました：

- 1) WHO 西太平洋地域事務局長より、ポスト COVID-19 パンデミックを見据えた WPRO の今後の方向性、日本国内の WHO 協力センター（WCC）への期待を伺う、
- 2) COVID-19 パンデミックを経験した WCC の関連活動状況について共有する。

3-2. 事前アンケート：

2022 年 2 月に、国内 WCC 全 37 施設にオンラインアンケートを実施して、WCC としての TOR に基づいて行った COVID-19 関連事業・研究について実施・進捗状況を伺いました。全 37 施設中 18 施設から、該当する活動に関するご回答をいただきました。当日は時間の関係により 6 施設より口頭発表いただくとともに、残りの 12 施設にはポスターを作成していただき、ご許可を得た上で NCGM 協力局のホームページに事前公開しました（現在も公開中：https://kyokuhp.ncgm.go.jp/network/kyoten/WCC/index.html#poster_session2022）。

3-3. 主なプログラム（表 1）：

最初に、NCGM 国土典宏理事長より開会の辞として、全国 WCC・WPRO・WHO 神戸センター・WHO 協会のご参加への感謝が述べられました。続いて同

第 4 回 WHO 協力センター連携会議 プログラム 「ポスト COVID-19 パンデミックの未来を見据えた効果的な連携・協力を考える」	
日時：2022 年 4 月 26 日（火）日本時間 14:00-16:15 方式：オンライン、日本語 目的： 1. WHO 西太平洋地域事務局長より、ポスト COVID-19 パンデミックを見据えた WPRO の今後の方向性、日本国内の WHO 協力センター（WCC）への期待を伺う。 2. COVID-19 パンデミックを経験した WCC の関連活動状況について共有する。	
日本時間	議 題
14:00-14:05 (5 分)	開会の辞： NCGM 国土典宏 理事長
14:05-14:10 (5 分)	開催趣旨の説明：NCGM 国際医療協力局 蜂矢正彦 連携協力部長 (その後フォトセッション)
14:10-14:20 (10 分)	地域事務局長ご挨拶 「ポスト COVID-19 の未来を見据えた、WPRO の今後の方向性と日本国内の WHO 協力センター（WCC）への期待」 葛西健 WHO 西太平洋地域事務局長 「西太平洋地域における WHO コラボレーティングセンターの現状と今後の方向性」 野崎慎仁郎 WPRO コンプライアンス・リスクマネジメントオフィサー
14:20-16:00 (100 分) (うち休憩 10 分)	WCC からの活動紹介(敬称略) 内容：COVID-19 パンデミックの中での活動紹介(連携・協力への工夫を含む) 形式：6 施設より各 15 分間の発表(質問はチャットで随時受付)* 1)14:20-14:35 「COVID-19 対応-臨床分野・WHO との協力を中心に」 石金 正裕(国立国際医療研究センター 国際感染症センター) 2)14:35-14:50 「パンデミックがもたらした口腔健康への影響とその対応」 小川 祐司(新潟大学大学院医歯学総合研究科 予防歯科学) 3)14:50-15:05 「コロナ禍における自殺対策について」 清水 康之(厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター) (休憩 15:05-15:15) 4)15:15-15:30 「COVID-19 パンデミックと支援者のメンタルヘルス」 梅田 麻希(兵庫県立大学地域ケア開発研究所) 5)15:30-15:45 「リハビリテーションからみた COVID-19」 芳賀 信彦(国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局) 6)15:45-16:00 「With COVID-19 時代の水と衛生」 浅見 真理・島崎 大(国立保健医療科学院 生活環境研究部)
16:00-16:10 (10 分)	まとめ NCGM 国際医療協力局 藤田則子 運営企画部長
16:10-16:15 (5 分)	閉会の辞 NCGM 国際医療協力局 池田千絵子 局長

表 1 口頭発表一覧

協力局の蜂矢正彦連携協力部長による開
会趣旨説明の後、WPRO の葛西健地域
事務局長、および野崎慎仁郎コンプライ
アンス・リスクマネジメントオフィサー
からご挨拶をいただきました。

葛西事務局長は、2019 年 10 月に地
域委員会で採択され、現在 WPRO の活
動の指針となっている地域のビジョン
‘For the future’ に関して、特に各国に
共通する 4 つの課題(①健康危機管理(薬
剤耐性を含む)、②生活習慣病と高齢化、
③環境保健と気候変動が健康に与える影
響、④ Reaching the unreached) につ
いて説明されました。同時に、現在起
きているこれら 4 つの課題を、今日を起
点に解決しようとするのではなく未来か
ら考えて逆算するという考え方(「未来
からの反射」: ‘Back casting’) の重要
性を強調されました。さらに、「健康と人
々の生活や経済といったそれ以外の要素
を結び付けて、これまでの日本の経験お
よび各国の参考になるようなエビデンス
を、各国の政策立案のために効果的に提
供してほしい。それによって生じる結び
つきが、西太平洋地域独自の健康文化と
いったものにつながり、さらにそれが世
界に波及するという ‘Win-Win-Win’ の
未来を創出できる」という WCC への期
待をお話されました。引き続き野崎様
より、「西太平洋地域における WCC の現
状と今後の方向性」と題して、WPRO
の WCC の概要や、毎年 WPRO で開催
されている「WCC フォーラム」の紹介、
各国における活動紹介(中国、モンゴル、
フィリピン、メコン川流域、太平洋島嶼
国)に関してお話していただきました。

続いて「COVID-19 パンデミックの
中での活動紹介(連携・協力への工夫を
含む)」と題して、全国 6 つの施設より

各 15 分間ご発表いただきました。短時
間ずつではあったものの、臨床分野にお
ける COVID-19 対応の他、口腔保健、
自殺対策、精神保健、リハビリテーショ
ン、水と衛生といった、現代のグローバ
ルヘルスにおける多様な重要課題に関し
て、コロナ禍での活動のご苦労や工夫を
含めた最新情報を聴くまたとない機会と
なりました。その後、ポスター発表(表
2)も併せた全体の「まとめ」として、
NCGM 協力局の藤田則子運営企画部長
が以下のコメントを述べました：

・NCGM 協力局ホームページに掲載さ
れているポスター発表にも、新しい臨床診
断や検査薬の開発、在住外国人のための
勉強会、産業保健、国内出生率低下への
対策など、様々な分野のご発表があった。
国内の WCC の活動の多様性を改めて感
じ、大変勉強になった。

・「連携」という観点からは、地域にお
けるガイドライン策定や合同セミナー開
催など、WPRO と既に緊密に連携して
いる施設のご発表を聴くことができた。
一方で、日本国内を中心に展開されてい
るすばらしい活動も複数あり、今後は
WHO および WPRO のフォーカルポ
イントの方達と相談しながら、国内外のさ
らなる「連携」によって地域の複数の国
での活動につなげていけたら、と考えて
いる。

・それぞれの活動が多様である分、国内
での WCC 間の連携はなかなか難しい面
もあると思うが、WPRO の担当の方・
フォーカルポイントとより緊密に連携し
相談することで、このようなすばらしい
活動を、国や施設を越えて連携し発展さ
せていくことができればと考える。

最後に閉会の辞として、NCGM 池田
千絵子協力局長より「COVID-19 によ

る世界の大きな変化の一つがオンライン
でのコミュニケーションの進展であり、
今回の会議もまさにそのような新しい形
式を活用して開催した。オンライン形式
には、対面での会議にはない良さと限界
の両方があることを認識している。遠隔
開催である故のご不便をお詫びすると
ともに、皆様のご協力でこうして開催で
きたことを感謝したい」というメッセー
ジが述べられました。

(口頭発表・ポスター発表を含む全内容
は、「第 4 回 WHO 協力センター連携会
議報告書」として NCGM 協力局ホーム
ページより閲覧可能です：[https://
kyokuhp.ncgm.go.jp/library/
who/2022/wcc_no4_
renkeikaigi_20220426.pdf](https://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/who/2022/wcc_no4_renkeikaigi_20220426.pdf))

4. 会議を終えて

久しぶりの開催となった今回、初のオ
ンライン方式となり、参加者の皆様には
ご不便をおかけした点多かったと思い
ます。18 施設より貴重な活動報告を事
前送付していただいたものの、会議時間
の関係で口頭発表を 6 施設のみに限定
せざるを得ず、さらに質疑応答に十分な
時間をとることができなかったことを、
申し訳なく思っております。会議開催後
のアンケートでは、概ね「(会議内容は)
有益だった」というご感想をいただきほ
っとしたものの、今回の不足としてご指
摘いただいた点は、次回の開催に是非生
かしたいと考えています。ご参加いた
だいた全ての皆様に心から感謝するとと
もに、COVID-19 パンデミックが収束
して再び対面でお会いできる日が来るこ
とを心から願っております。

関連活動のポスター発表（12施設）

JPN	機関名	事業名
JPN -38	公益財団法人 結核予防会結核研究所	SDGs達成に向けたUHC時代における結核制圧 UHC時代の結核制圧と薬剤耐性－検査リーダーのための の実施訓練を通じた知識と技術の向上－
JPN -45	国立国際医療研究センター 国際医療協力局	アジア西太平洋地域の低中所得国における医療従事者 育成システムの強化に関する研究～法的枠組み、経年 別実践能力の評価、継続教育と地方定着について～
JPN -53	産業医科大学 産業生態科学研究所	産業保健現場における感染症管理に関する技術的レビ ューの開発支援
JPN -76	労働安全衛生総合研究所	
JPN -58	聖路加国際大学 WHOプライマリーヘルスケア 看護開発協力センター	在日外国人向けオンラインCOVID-19ワクチン勉強会
JPN -64	国立感染症研究所 インフルエンザ・呼吸器系 ウイルス研究センター	Global Influenza Surveillance and Response System (GISRS)におけるSARS-CoV-2に関する協力
JPN -67	長崎大学熱帯医学研究所 ウイルス学分野	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する緊 急研究
JPN -73	東京医科歯科大学 国際保健医療事業開発学分野	Research on the aspect of governance in cities and collection of good practices of cities/local governments to tackle COVID-19 and beyond.
JPN -78	日本大学人口研究所	WCCとしてTORに基づいて行ったCOVID-19と出生 行動に関する研究
JPN -88	医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所	栄養と身体活動に関する一般向けの情報の公開及び生 活習慣の変化に関する研究
JPN -94	国立国際医療研究センター 国際感染症センター	COVID-19の臨床対応、研修、人材育成、研究
JPN -98	国立国際医療研究センター 国際感染症センターAMR臨床 リファレンスセンター	COVID-19流行に伴う薬剤耐性(AMR)に関する研究、 研修、アウトブレイク対応

（NCGM 協力局ホームページに公開済）

https://kyokuhp.ncgm.go.jp/network/kyoten/WCC/index.html#poster_session2022



表2 ポスター発表一覧